

報告テーマ

ベトナムの安全保障と対米対中外交
“Vietnam’s Quest for Security in the Midst of US-China Rivalry”

氏名(所属)

小笠原高雪(山梨学院大学)

要旨

本報告の目的は、ベトナムの安全保障政策の変遷と現状を検討し、米中競争下の東南アジア政治の一側面に光をあてることにある。

ソ連圏解体後のベトナム指導部内では、対中関係の現実的調整という共通前提の下で、体制の安全保障や二国間関係を重視する考え方(中越連携の深化)と、対外関係の多角化や総合的安全保障を重視する考え方(ASEAN 統合、西側接近)とが並存・競合してきた。しかし2010年代に入ってから、米越関係の進展や南シナ海の緊張を背景として、後者の比重が増大してきたように思われる。2016年1月の第十二回党大会は、そうした傾向のひとつの頂点をなすものであり、本報告は大会で提起された対外路線の諸特徴を整理する。

他方、中国の急速な国力増大、とりわけ一帯一路の展開は、米国を中心とする既存の国際秩序を揺るがしかねないものとなっている。そのことはまた、トランプ政権とともに表面化した米国第一主義によって、いっそう強められている。本報告ではベトナムが以上の変化をどのように認識し、それにどう対応しようとしているか、にも可能な範囲で言及したい。そこでは経済発展と安全保障の最適解の、絶えざる模索が確認されることになるであろう。